

# 「ご心配をお掛けしたことを おわび申し上げます」

市民の足を守るため最大限の努力をしております



札幌市長 上田 文雄

白石区・厚別区のバス路線の継続問題につきましては、引き続き、北海道中央バスに運行していただくこととなり、今後、協議をしていきます。市民の皆さんにご心配をお掛けしたことを、深くおわび申し上げます。大変申し訳ございません。

## <経 緯>

平成18年の北海道中央バスとの協議において、同社から、東・新川両営業所の土地・建物の貸付料が有償になるのであれば、白石営業所から撤退するとの考えが示されて以降、市と同社は路線の継続運行について協議を行ってきました。しかし、残念ながら協議は整わず、同社から路線の廃止届出書が提出されました。その後、市は後継事業者の選定手続きを行い、ジェイ・アール北海道バスに運行を担っていただくことで、7月31日に大筋で合意しました。

ジェイ・アール北海道バスには12月21日からの運行準備に並々ならぬ努力をしていただきました。同社としては新たな地域でのスタートですから、車両の調達などの初期投資が運行継続には不可欠です。しかし、これらについて税負担することについては、市民の皆さんから厳しいご意見をいただきました。

こうしたご意見を真摯<sup>しんし</sup>に受け止め、市民の皆さんがしっかりと納得のいく問題解決の道はないか、再度熟考を重ねました。そして8月30日に、ジェイ・アール北海道バスにお伺いし、私から後継事業の引き受けをやめることについてご理解いただくようお願いし、これに応じていただける旨のご英断をいただきました。その結果をもって、北海道中央バスに継続運行を要請し、同意を得たものです。

## <背 景>

今回の問題の背景には、バス事業民営化の際、バス事業者の経営努力によってもなお、赤字で運行継続が困難となった場合に、どのような解決方法をとるのか、それを協議する仕組みが十分に整理されていなかったことがあると考えています。

また、平成14年の改正道路運送法の施行により、バス事業の規制緩和が行われ、路線の撤退の自由が認められた中、赤字路線を引き受けるバス事業者が現れないという事態が生じていることを考えると、現行の補助制度はバス事業の安定的な運行に必ずしも結びついていないと反省しています。

## <今後に向けて>

バスネットワークは都市の重要なインフラであり、市民の足を守ることは自治体の責任です。まずはこれまでの問題点をしっかり反省し、市民やバス事業者、さらには学識経験者をも交えた、透明性のある議論の場をつくっていかねばならないと考えています。今後は、バス事業者との交渉経過も市民の皆さんに明らかにしながら議論を進めていくとともに、9月下旬から始まる市議会での議論を踏まえ、市民の皆さんが安心し、かつ納得して利用していただけるバス交通の構築に向けて、最大限の努力をしております。